

開発途上国の教員養成機関における健康問題と ヘルスプロモーション活動のニーズ

友川幸¹⁾、朝倉隆司²⁾、小林敏生³⁾、Sounieng VONGKHAMCHANH⁴⁾、
Bouaphanh LUDETMOUNSONE⁴⁾、Nieo SILAVONG⁴⁾、Khemphet BOULOMXAY⁴⁾、
Bounseng KANHAVONG⁴⁾、Saysamone PRASONEXAY⁴⁾、
Phoumy DOUANGCHANH⁴⁾、門司和彦⁵⁾

1) 信州大学教育学部 2) 東京学芸大学教育学部 3) 広島大学大学院保健学研究科
4) ラオス国立大学教育学部 5) 総合地球環境学研究所

Health problems in developing country and necessity of health promotion activities for Teacher's Training College in Developing Country

要 旨

本研究は、ラオスの教員養成機関の学生及び職員の健康問題、学校で必要とされているヘルスプロモーション活動および健康に関連したサービスを明らかにすることを目的とした。2010年2月に、ラオス国立大学教育学部の教職員および附属学校に勤務する教員190名を対象とし、自記式の質問紙を使用し、身体的健康に関する自覚症状の有無、学生・教職員の健康問題、学校内で実施が必要だと思う健康に関連した活動について回答を得た。その結果、女性は、男性に比べて深刻な体の痛みや不調を訴えるものが多かった。多くの教職員が疲労、イライラ、頭痛、背中や腰の痛み、めまい、眼精疲労を訴えた。学生の健康問題は、感染症、教職員の健康問題は生活習慣に関連した疾病であると考えられていることが分かった。また、学校内で実施が必要なヘルスプロモーション活動としては、学生には、手洗いや蚊帳の使用、衛生的な食べ物の摂取、教職員には、定期的な運動と生活習慣病対策の一環としての食事指導、メンタルヘルスなどに関連した活動が挙げられた。また、スポーツ・エクササイズ、健康診断、ヘルスセンターの設置、清掃活動、健康教育、環境保全活動などが求められていることが明らかになった。

Abstract

The objective of this study is to clarify (1)health problem of students, staffs and teachers of Teacher's Training College in Laos People's Democratic Republic (Lao PDR) and (2) necessity of health promotion activities in Teacher's Training College.

One hundred ninety teachers and staffs who working in faculty of education and it's attachment school in national universities of Lao PDR, participated in our anonymous questionnaire. We inquire into (1) symptoms and signs of individual physical health condition, (2)health problems which students, teachers and staffs have been suffering from, and (3) required health promotion activities in Teacher's Training College.

Our result showed that females have more severe physical pains and complains than males. The common complaints were as follows; fatigue, irritability, headache, back pain, lumbago, dizziness and eyestrain. We found out that the main of health problems for students are infectious disorders, on the contrary, for the teachers and staffs, lifestyle affecting to disorders.

In conclusions, for students of health education programs, it was necessary to (1) become habitual washing hands, (2)use regularly mosquito nets, (3)eat hygienic foods. On the other hand, for teachers and staffs, it was

necessary to (1) introduce to have exercise habits regularly, (2) diet for control of life related diseases, and (3) support for psychological problems. In particular, (1)providing sports/exercise events, (2)carrying out annual medical check-ups, (3)setting up health center in the universities, (4)developing cleanup activity, (5)introducing health education, and (6) performing environmental safeguard are also strongly requested.

Key words: 教員養成機関、健康問題、ヘルスプロモーション活動、ニーズ、ラオス
Teacher Training College, Health Problem, Health promotion, needs, LaoPDR

I. はじめに

開発途上国では、現在、学校を活用したヘルスプロモーション活動が進められており¹⁾、教員が、学校での活動の重要性と役割を理解することが、成功のカギとなることが指摘されてきた²⁾。

そのため、教員養成機関が抱える健康問題に対応したヘルスプロモーション活動の実施を通して、教員を目指す若者が学校でのヘルスプロモーション活動の役割や重要性を理解することが極めて有効なアプローチであると考えられる。しかしながら、これまで、開発途上国の教員養成機関において、教職員や学生が抱える健康問題および学校内でのヘルスプロモーション活動や健康に関連したサービスのニーズについては、十分に明らかにされていない。

研究の目的

本研究では、教員養成を行う機関における教職員の身体的健康に関する自覚症状の有無、学生及び職員の健康問題、学校内で必要とされている健康に関連した活動を明らかにし、今後、学校内で実施が必要となるヘルスプロモーション活動および健康に関連したサービスを明らかにすることを研究の目的とした。

方法

2010年2月に、ラオスの首都にあるラオス国立大学教育学190名（20-60歳、男性56名、女性134名）を対象とした。自記式の質問紙を使用し、身体的健康に関する自覚症状（腹痛、胃痛、頭痛、疲れやすい、衰弱、イライラする、睡眠困難、手足のふるえ、心配事がある、下痢、便秘、風邪、めまい、肩の

痛み、背中や腰の痛み、腕の痛み、食欲不振、心臓がドキドキする、眼精疲労）の有無、学生・教職員の健康問題、学校内で実施が必要だと思う健康に関連した活動およびサービスについて回答を得た。身体的健康に関する自覚症状の有無については、先行研究³⁾をもとに、予備的調査を行い、項目を選出した。回答は、過去6ヶ月間の自覚症状について、「ない」、「たまにある」、「時々ある」、「よくある」の4件法で回答を得た。得られた回答のうち、「たまにある」、「時々ある」および「よくある」と回答した教職員を「症状があると回答した教職員」とした。

II. 結果と考察

1) 回答者の属性

ラオス国立大学教育学部と附属学校に勤務する教員および職員、男性 56名（39.6±11.8歳）と女性 134名（41.0±9.3歳）から回答を得た（表1）。

表1 教職員の属性情報

		男性 (n=56)	女性 (n=134)
婚姻状況	独身	36.0	15.2
	既婚	62.0	78.0
	離別	2.0	3.0
	死別	0.0	3.8
宗教	仏教	96.0	96.2
	キリスト教	2.0	0.0
	イスラム教	0.0	0.0
	精霊信仰	2.0	3.8
民族	低地ラオ族	94.0	96.2
	中地ラオ族	4.0	0.8
	高地ラオ族	0.0	3.1
	その他	2.0	0.0
学歴	職業訓練校	8.0	32.6
	学士課程修了	60.0	60.6
	修士課程修了	32.0	6.1
	博士課程修了	0.0	0.7
職業種	国立大学の教員	86.0	43.9
	附属幼稚園の教員	2.0	19.7
	附属小学校の教員	4.0	10.6
	附属中・高校の教員	8.0	25.8
勤務年数(年)		10.5±8.9	14.8±9.7

2) 身体的健康に関する自覚症状の有無

女性は、男性に比べて深刻な体の痛みや不調を訴えるものが多かった。多くの教職員が疲労(男性 88.1%、女性 67.9%)、イライラ(男性 81.3%、女性 71.4%)、頭痛(男性 79.1%、女性 62.5%)、背中や腰の痛み(男性 69.6%、女性 60.4%)、めまい(男性 41.8%、女性 70.9%)、眼精疲労(男性 46.4%、女性 51.5%)を訴えた(図1)。教職員の多くは、大学や附属学校での授業を担当しており立ち仕事が多い。また、コンピューターを長時間に渡って使用しなければならないデスクワークも行なっているため、背中や腰の痛み、眼精疲労を訴えるものが多くなっていると考えられる。このようなVDT症候群への対応としては、作業と作業の間の適度な休息、軽い体操などを推奨することが効果的であると考えられる⁴⁾。

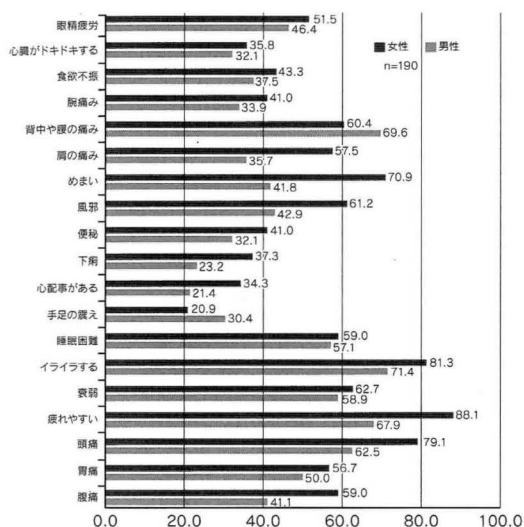


図1 自覚症状があると回答した教職員の割合(%)

3) 学生の健康問題と教職員の健康問題

学生の健康問題としては、回答者が多い順に、インフルエンザ(20.6%)、下痢(6.5%)、頭痛(6.5%)、胃痛(6.5%)、腹痛(5.8%)、デング熱(5.8%)が挙げられた(表2)。また、栄養不良、近視や薬物中毒の問題を挙げた教職員もいた。学生の健康問題の多くは、インフルエンザやデング熱といった感染症や不衛生な食べ物の摂取等から引き起こされる下痢や腹痛であると認識されていることが明らかになった。一方、教職員の健康問題としては、回答者が多い順に、インフルエンザ(14.8%)、高血圧(9.0%)、頭痛(9.0%)、神経痛(9.0%)、肝炎(5.8%)、下痢(5.2%)、デング熱

(3.2%)、めまい(3.2%)などが挙げられた。また、心臓病、メンタルヘルス、疲労、ガン、糖尿病を挙げた教職員もいた(表3)。教職員の健康問題は、学生同様、インフルエンザやデング熱といった感染症や不衛生な食べ物の摂取等から引き起こされる下痢の他に、高血圧、心臓病、メンタルヘルス、ガン、糖尿病などの非感染性の疾病、特に、生活習慣に関わる疾病であると認識されていることが明らかになった。しかしながら、身体的健康に関する自覚症状として、疲労やめまい、頭痛などを挙げている教職員が多いため、日々の疲労が積み重なっている現状があることが示唆された。学生と教職員の間では、異なる健康問題があることが明らかになり、各々の健康問題に対応するようなヘルスポモーション活動を企画、実施していく必要があることが示唆された。

表2 学生の健康問題

順位	健康問題	%	順位	健康問題	%
1	インフルエンザ	20.6	12	せき	1.9
2	下痢	6.5	14	アレルギー	1.3
2	頭痛	6.5	14	高血圧	1.3
2	胃痛	6.5	14	疲労	1.3
5	腹痛	5.8	17	コレラ	0.6
5	デング熱	5.8	17	充血	0.6
7	交通事故	3.9	17	うつ症状	0.6
7	発熱	3.9	17	めまい	0.6
9	マラリア	3.2	17	栄養不足	0.6
9	神経痛	3.2	17	はしか	0.6
11	粉塵	2.6	17	近視	0.6
12	大気汚染	1.9	17	薬物中毒	0.6

表3 教職員の健康問題

順位	健康問題	%	順位	健康問題	%
1	インフルエンザ	14.8	11	メンタルヘルス	1.9
2	高血圧	9.0	11	風邪	1.9
2	頭痛	9.0	11	疲労	1.9
2	神経痛	9.0	11	発熱	1.9
5	肝炎	5.8	15	腹痛	1.3
6	下痢	5.2	15	交通事故	1.3
7	デング熱	3.2	17	胃痛	0.6
7	めまい	3.2	17	ガン	0.6
9	食あたり	2.6	17	糖尿病	0.6
9	心臓病	2.6			

4) 学校内で実施が必要だと思う健康に関連した活動およびサービス

学校内で実施が必要だと思う健康に関連した活動としては、回答者が多い順に、エクササイズ・スポーツ(58.7%)、清掃活動(24.5%)、健康関連サービスの提供(健康診断、治療、医者配置など)(21.9%)、

健康教育や健康情報の提供(12.3%)などが挙げられた。また、施設・設備の改善(17.4%)、ゴミの処理(5.8%)、水の供給とマネージメント(4.5%)、十分な数の衛生的なトイレの提供(1.9%)、などが挙げられたことから、学校内での水や衛生に関する施設が十分に供給されていない現状があることが示唆された。学校を拠点としたヘルスプロモーション活動の効果を上げるためには、十分な資源を供給し、カリキュラムの中でも、健康についての指導を行うことを推進する必要があると指摘されている⁵⁾。これ

らのことから、施設設備の充実と合わせて学内での健康教育や健康情報の提供を充実させていくことが効果的であると考えられた。また、環境保護に関する活動(13.5%)、環境教育(8.4%)、木や花を植えること(4.5%)など環境に関する活動が挙げられたことから、健康を保つための重要な要素の一つとして、環境保全の取り組みの充実が位置づけられていると考えられた。また、環境保全に関する意識の高さが伺われた。(表4)

表4 学校で必要だと思う健康に関連した活動およびサービス

順位	健康に関連する活動	%	順位	健康に関連する活動	%
1	エクササイズ・スポーツ	58.7	11	スポーツ大会の企画	6.5
2	清掃活動	24.5	12	ゴミの処理	5.8
3	健康関連サービスの提供 (健康診断、治療、医者との配置など)	21.9	13	水の供給とマネージメント	4.5
4	施設・設備の改善	17.4	13	木や花を植えること	4.5
5	環境保護に関する活動	13.5	15	十分な休養	3.2
6	健康教育や健康情報の提供	12.3	16	健康に関する調査研究	1.9
7	スポーツの道具や施設の提供	11.0	16	十分な数の衛生的なトイレの提供	1.9
8	環境教育	8.4	18	アルコール摂取のコントロール活動	1.3
9	健康に関連したイベントの開催	7.7	19	地域住民との共同活動	0.6
10	栄養教育	7.1	19	体育教育	0.6

Ⅲ. 結 論

教員養成を行う機関における教職員の身体的健康に関する自覚症状の有無、学生及び職員の健康問題、学校内で必要とされている健康に関連した活動を検討した。その結果、女性は、男性に比べて深刻な体の痛みや不調を訴えるものが多く、多くの教職員が疲労、イライラ、頭痛、背中や腰の痛み、めまい、眼精疲労を訴えていることが明らかになった。また、学生の健康問題は感染症、教職員の健康問題は生活習慣に関連した疾病であると考えられていることが分かった。これらの健康問題の違いから、例えば、学生には、手洗いや蚊帳の使用、衛生的な食べ物の摂取、教職員には、定期的な運動の推奨、生活習慣病対策の一環としての食事指導、メンタルヘルスなどに関連した活動を提供することが必要である。また、今後、学校内で実施が必要となるヘルスプロモーション活動および健康に関連したサービスとしては、エクササイズ・スポーツの推奨、定期的な健康診断サービスの提供、ヘルスセンターの設置、清掃活動、健康教育、環境保全活動などを学内で行っていくことが求められていることが明らかになった。

Ⅳ. 謝 辞

本研究は、りそな・アジアオセアニア財団の研究助成および平成21年度厚生労働省国際医療研究委託費21指3「途上国における保健医療サービス強化のための学校保健普及についての研究」により支援を受けて実施されました。

Ⅴ. 参考文献

- 1) Wanjiru Mukoma and Alan J. Fisher, Evaluation of Health Promoting schools: a review of nine studies. Health Promotion International. Vol.19.no.3,pp357-368,2004
- 2) Didier Jourdan, Oddrum Sandal, Fatou Diagne, et. al. The future health promotion in schools goes through the strengthening of teacher training at global level. Global Health promotion, Vol. 15. No.3, pp36-38, 2008
- 3) Leena Koivusilta, Rimpela Arja, Vikat Andres, Health behaviours and health in adolescence as predictors of educational level in adulthood: a follow-up study from Finland, Social Science & Medicine, Volume 57, issue 4 , pp 577-593, 2003
- 4) 厚生労働省, VDT作業における労働衛生環境管理のためのガイドライン, 2002
- 5) European Commission, ヘルスプロモーションの有効性に関するエビデンス, pp136-152.2003